



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

本学歯学部では国民の健康長寿に貢献する歯科医療の展開を旗頭に、これまで新しい教育・研究・診療を進めてきました。呼吸・摂食・咀嚼・嚥下・発音等の口腔機能が、生命の維持、社会生活のあり方、さらに生活の質に密接に関係するので、健康長寿のためには、これら口腔機能の育成、維持、および回復が重要であることは言うまでもありません。



人間の感情、すなわち喜怒哀楽には目元、口元の表情が現れます。歯も重要であり、歯をむき出して怒り、歯を喰いしばり堪えます。「笑う門には福来たる」という諺があるように、笑うことは、人間関係を良好にして、潤滑剤の役割りを果たしています。日本では歯を見せない奥ゆかしい笑いが上品とされてきましたが、最近は積極的に歯を見せる笑顔(スマイル)が認知されています。

笑顔の効用については、マスコミでも取り上げられ、医学的な効用があり、健康に良いことが紹介されています。

- 1) 笑うと間脳に興奮が伝わり、神経ペプチドが活発に産生され、血液・リンパ液を通じて体中に流れ、NK細胞を活性化して体の免疫力をアップする。
- 2) 笑うと脳波のα波が増えて脳がリラックスする。さらに大脳皮質に流れる血液量が増加し、脳の働きが活性化する。
- 3) 笑うと副交感神経が優位になるので、自律神経のバランスが整い、ストレス解消効果がある。
- 4) 笑うのは内臓の体操のようなもので、腹筋、横隔膜、肋間筋、顔の表情筋を使うのでカロリーを消化してダイエット効果があり、美容にも良い。

個人の身体的な健康に加えて、前向きな気持ちや対人コミュニケーションへの効果を総合すると、笑うこと、すなわち笑顔をつくるのが、健康長寿につながるの間違いありません。

しかし、超高齢社会に突入した我が国では、歯を喪失した、歯並びが悪い、前歯の形が悪い、歯の色が気になる、入れ歯がみつともないなどの理由で、歯を見せた笑顔を作れない国民が多数います。私たちの歯科医療は、このような方の悩みを解消して、笑顔に自信を持ってもらい、健康をとり戻すお手伝いができます。さらに、若い世代から積極的に魅力的な笑顔ができるように、支援することも将来の長寿健康のために重要です。

医療として患者さんに笑顔を提供することは勿論ですが、私たち自身すなわち職員と学生も笑顔を大事にしましょう。皆の魅力ある笑顔で、本学を、より働きやすい環境、より学習しやすい環境、さらに患者さんにより信頼される病院にしていきたいと思います。

CBT が実施されました

CBT 実施責任者 北川 昇

1月25日に、平成28年度共用試験CBTが実施されました。インフルエンザの流行が心配されましたが、4年生95名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、事前説明会やCBT体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、中村先生(副実施責任者)、荒木先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。

当日は共用試験実施評価機構から委嘱された東京歯科大学の新谷教授、大阪大学の阪井教授がモニター委員として来学され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に大変良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



(写真は体験テストの様子です。)

歯科医師国家試験が実施されました

D6 チューター委員会 船津 敬弘

第110回歯科医師国家試験が2月4日、5日の2日間実施され、本学は東京工科大学蒲田キャンパスで、他の都内や神奈川県と共に関験をいたしました。各大学とも関係者が応援に駆け付けており、大学それぞれの幟も立ち並び、会場前は応援ムードに溢れておりました。本年は2日間とも、寒さは厳しいものの天候に恵まれ、宮崎歯学部長、上條学生部長、美島教育委員長をはじめ多くの教員が集まり、2日目には1年先輩である臨床研修医も応援に加わり受験生の緊張をほぐし、後押しをすべく皆で声かけを行いました。本年度本学は94名の卒業生を国家試験の場へと向かわせました。殆どの6年生をこの会場に立たせることができたのも、多くの教員や、先輩方のご助力のおかげと感謝いたしております。大きな期待を寄せて3月17日(金)午後2時に発表される結果を待ちたいと考えております。



選抜Ⅰ期入試が実施されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

平成29年度歯学部選抜Ⅰ期・センター利用Ⅰ期・編入学Ⅱ期入試が1月26日(木)に、東京試験場(五反田TOCビル・五反田TOCメッセ)のほか、大阪試験場(新大阪丸ビル別館)、福岡試験場(南近代ビル)の3試験場で薬学部、保健医療学部と合同で実施されました。今年度の志願者数は、選抜Ⅰ期(50名募集)が453名、センター利用Ⅰ期(約10名募集)が選抜Ⅰ期との併願を含む197名、編入学Ⅱ期(若干名募集)が1名と、たくさんの方からの出願がありました。当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部の教職員の方々のご協力のもと無事に終了することができました。そして、1月30日に選抜Ⅰ期、2月3日にセンター利用Ⅰ期の合格者を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。ご協力を賜りました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げますとともに今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

OSCEが実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史

平成28年度共用試験OSCEが2月18日(日)に歯科病院において実施されました。評価、運営に関わったスタッフは、教職員162名、SP27名、機構モニター2名、外部評価者6名の合計197名で、94名の学生が受験しました。前日のテストランの際にステーション内の誘導・集計・回収に関してモニターと外部評価者の先生方からいくつか問題点が指摘されましたが、本番ではそれらの問題点は改善され、受験生の遅刻や大きなトラブルもなく無事に終了することができました。ただし、支台歯形成の課題で7名の受験生が歯種を間違えて形成を行うという事例が発生しました。共用試験OSCE全30課題のうち4課題に本課題と同様な禁忌肢が設定されており、基礎実習段階で複数の講座で対応できるように、実習指導者会議で検討したいと思います。

また、終了後の反省会において、運営面に関していくつか問題点が指摘されました。解決の難しい問題もありますが、歯科病院という限られた環境の中で公平かつ効率よく実施できるように、次年度の委員会でこれらの問題点を検討したいと思います。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

顎関節症治療学部門准教授に就任しました

歯科補綴学講座 菅沼 岳史

理事会においてスペシャルニーズ口腔医学講座顎関節症治療学部門への配置転換が承認されました。前船登雅彦准教授が定年退職され、昭和大学スポーツ運動科学研究所教授就任されたことを受け、異動することとなりました。学生教育において、4年生の講義「顎関節症・口腔顔面痛の診療」、5年生の臨床実習および6年生の総括演習を担当します。



近年、顎関節症の概念が変化し、顎関節症の原因は咬合だけでなく、それを含めた多因子説が主流となり、日本顎関節学会の顎関節症の病態分類と診断基準も国際分類であるDC/TMD (Diagnosis Criteria for Temporomandibular Disorders)に基づいて2013、2014年に改訂されました。

これらのことを反映した世界的潮流に合わせた学生教育を行うために、これまでの歯科補綴学講座での経験を踏まえ、教育ツールとして動画による視覚素材、Virtual Patientシステムおよび電子ポートフォリオシステムを積極的に活用して行く予定です。今後ともよろしく願い申し上げます。

歯学部学生へのマダガスカル医療報告会が行われました

歯科矯正学講座 中納 治久

平成28年度歯学部マダガスカル報告会が2月1日(水)に4号館2階202号室で開催されました。当日は、宮崎隆歯学部長、国際交流センター長のご挨拶をいただいた後に、私とD5松田彩さんとで医療協力活動・現地修学状況の報告を行いました。宮崎歯学部長はご挨拶の中で、昭和大学ならではの4学部共同での医療協力は、社会貢献だけでなく、学部連携・教育の意味でもとても重要である。その為、歯学部としても全面的にバックアップしたいと発言され、このプロジェクトの意義と重要性を再認識しました。



私は、1)マダガスカルの口唇口蓋裂診療における歯科的アプローチと2)マダガスカル唯一のマゼンガ大学歯学部との学部間提携について報告しました。1)に関しては、①現地で歯みがきの大切さ、手術前後の口腔ケア指導、②手術前のお口の中の型取り、写真撮影、③同行した学生に対する教育を行ったこと、2)に関しては、①マダガスカルで唯一歯学部があるマゼンガ大学を訪問し、学生と研修医に対して口唇口蓋裂の矯正治療に関して講義を行い、②歯学部間提携の交渉、③昭和大学歯科病院矯正歯科への留学生受け入れを誘致したことを説明しました。さらに、平成29年4月1日から昭和大学歯科病院矯正歯科にマダガスカルのRAKOTOHARINVO HERY-ZO先生(36歳)が、1年間留学することが決定したこと、昭和大学歯学部とマゼンガ大学歯学部の学部間提携締結にむけて準備が進んでいることも報告しました。



松田さんは、学生らしく現地で修学状況を説明しました。具体的には、医学部麻酔科の先生から日本ではなかなか行う事が出来ないガウンテクニックや全身麻酔を行う際の挿管を、医学部形成外科の先生、看護師さんから口唇・口蓋形成術時の器械出しや介助について直接指導を受けたこと、歯科的には患者さんへの術前術後の説明、顔面写真、口腔内写真、印象採得を実際に行ったことを報告しました。さらに、術後のアフターケアとして、不安そうな子どもを安心させるために、チェキでのスナップ写真やアニメのシールをプレゼントしたこと、現地での困難な生活やフィールドワークについても写真を用いて発表しました。

当日は、歯学部の試験と重なったこともあり、D2～D4の学生10名程の参加でしたが、その分非常に密な質疑応答がなされ、学生の「昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力」に参加したいという意欲を感じることが出来ました。

昭和大学スポーツ運動科学研究所教授に就任します

顎関節症治療学部門 船登 雅彦

理事会において昭和大学スポーツ運動科学研究所教授就任(任命日:4月1日)が承認されました。平成27年4月に創設された昭和大学スポーツ運動科学研究所は昭和大学藤が丘リハビリテーション病院内にあり、専任は三邊武幸所長、磯良崇先生、西中直也先生です。歯科としてはプロ野球投手、大東建託(株)「TEAM DAITO」アスリートおよび日本体育大学ラグビー部の選手のメディカルチェックならびにスポーツマウスガードの提供等に携わっております。また、平成28年度には本研究所の研究助成により「全身と咬合との関連性」を解明するため、歯学部と連携して「マウスガードによるスポーツパフォーマンスの改善」の検討を進めております。本学にはアイスホッケー女子日本代表「スマイルジャパン」(平昌五輪出場決定)のアスリート職員がおります。これは「医系総合大学」としてスポーツをサポートする象徴です。私も新たな職場において、



なお一層、口腔機能と全身の身体機能との関わりを中心に東京五輪へ向けて研究を進めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

(写真:上段右より西中准教授, 磯准教授, 下段右より三邊所長, 船登)

海外法人医療基金チームの一員としてタイ医療巡回に参加しました

歯周病学講座 加藤 麻友

平成29年2月7日から13日まで一般財団法人海外法人医療基金(JOMF)が行っている医療派遣でタイ(バンコク, シラチャ)に行ってきました。JOMFは外務、厚生、労働3省の共管で設立された一般財団法人で主に海外在留邦人の医療に関する不安解消を目的とする事業を行っており、今回は歯科検診、保健授業、歯科相談会を実施いたしました。



本巡回の募集を聞き、大学にいただけでは会えない人に会い、知らない世界を知り、経験することで自分の知見が深まると考え参加を希望いたしました。実際巡回に参加すると、大学時代から在学している「ホーム」である温かく居心地のよい昭和大学で過ごしている私が、全く「アウェイ」の場所に行き、人に会い、思考を問われ、大変困惑しましたが帰国時には目には見えないかけがえの無い財産を得て帰ってきたことを実感しました。自分の無力さを実感するとともに、強烈で、濃密な、学びの多い一生の宝となる経験をさせていただき、この機会を与えてくださった宮崎隆歯学部長、高見正道先生を始め大学関係者の皆様、本巡回参加の許可を与えてくださった山本松男先生、JOMFの関係者の方々、現地で有り余る情熱を持って指導をくださった田中健一先生には心から感謝を申し上げます。

海外留学報告

高齢者歯科学講座 竹内 沙和子

私は現在、アメリカ、ニューヨーク州にあるロチェスター大学で、二年間のAEGD(Advanced Education in General Dentistry)プログラムを受けています。ロチェスター大学には歯学部が無く、Strong Medical Hospitalに併設した歯科医療機関としてEastman Institute of Oral Healthがあります。プログラムの内容は、基本的に毎日診療、その間の朝、昼、晩と講義、そして臨床研究です。診療は、基本的に自分の一般歯科診療枠および口腔外科、口腔衛生、高齢者施設、専門科見学(歯周および補綴)そして急患当番となっており、他科に渡って勉強することができます。このアドバンスプログラムの強みは、多国籍のクラスメイトで構成されていて、そのほとんどが、それぞれの専門を持っていることです。

また、アメリカおよびカナダでライセンスを取得した若手歯科医師とも一緒にプログラムを受けています。そして、スケジューリングは個人の希望を考慮してもらえるため、障がい者専門病院で、障がい児および高齢患者を週1日診ています。プログラムは、セメスターで区切られていて、歯科全般の講義と試験、そして、ケースプレゼンテーションと文献レビューを行います。そのすべてがエビデンスベースで構成されているため、論文を物凄く沢山読んでいます。そして、週の半日設けられている研究時間では、高齢者歯科の教授と施設における臨床研究を行っています。



以上のように、毎日新しい事の連続で、刺激的な毎日を送っています。現在もう一年間GPR(General Practice Residency)プログラムを同じくロチェスター大学のStrong Medical Hospitalで受ける準備をしています。ここまで、多くの出会いと、特に高齢者歯科講座の佐藤教授および医局員の方々からの支えには、いつも感謝しています。ぜひ、若手歯科医師に限らず、海外で学んでみたい先生方は、挑戦してみてください。未熟者ですが、今後、少しでも皆様の力になれば幸いです。昭和大学の益々の発展を祈っています。

以上のように、毎日新しい事の連続で、刺激的な毎日を送っています。現在もう一年間GPR(General Practice Residency)プログラムを同じくロチェスター大学のStrong Medical Hospitalで受ける準備をしています。ここまで、多くの出会いと、特に高齢者歯科講座の佐藤教授および医局員の方々からの支えには、いつも感謝しています。ぜひ、若手歯科医師に限らず、海外で学んでみたい先生方は、挑戦してみてください。未熟者ですが、今後、少しでも皆様の力になれば幸いです。昭和大学の益々の発展を祈っています。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 3月1日(水):新D2 オリエンテーション
- 3月6日(月):新D2 防災訓練
- 3月9日(木):卒業式
- 3月9日(木):D5 iOSCA本試験
- 3月17日(金):大学院修了式
- 3月17日(金):歯科医師国家試験合格発表

受賞

広報委員長 中村 雅典

歯学部だより12月号において、第53回日本口腔組織培養学会ベストプレゼンテーション賞受賞者の氏名に誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます。

誤)障害者歯科学 馬目 遥子
正)障害者歯科学 馬目 瑤子

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

2月は、入試・進級試験などが重なり忙しい月となりましたが体調管理にはお気を付け下さい。末筆となりましたが、ご寄稿いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。